

3. 事業概要

(1) 常設展

常設展示室は全体で5室の構成となっている。第1室は「山梨の文学風土」と「樋口一葉」コーナー、第2室は「山梨出身ゆかりの作家と作品」、第3室は芥川龍之介コーナー、第4室は飯田蛇笏・飯田龍太記念室、第5室は山梨出身・ゆかりの作家104名をジャンルごとに年2回入れ替えて紹介している。

常設展示室の第1～4室は、下記のとおり春夏秋冬にあわせて年4回、一部の資料の入れ替えを行い、第1室の一面に期間限定で紹介するコーナーを設け、今年度は開館30周年を記念して「近代文学の名作」と題し、作品の原稿・草稿を展示した。また第1室で、開館30周年記念事業の本因坊戦開催に合わせて、平成31年4月23日（火）～令和元年6月2日（日）の会期で「囲碁と文学」のコーナーを設けた。

なお、令和2年2月28日（金）から5月21日（木）まで、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、休室とした。以下の資料一覧には、平成31年3月12日（火）～令和2年2月27日（木）の間、常設展示室に出品した資料すべてを提示した。

第1室

期間限定公開

◆ 春の常設展

近代文学の名作1 樋口一葉「たけくらべ」 3/12（火）～4/21（日）

樋口一葉「たけくらべ」草稿「雛鳥」
樋口一葉 筆 仕入れ帖
鎗木清方「大黒屋の美登利」軸装
木村荘八『たけくらべ絵巻』1982（昭和57）年8月 講談社
幸田露伴 真筆版『たけくらべ』序文原稿

近代文学の名作2 樋口一葉「にぎりえ」 4/23（火）～6/2（日）

樋口一葉「にぎりえ」草稿
鎗木清方『にぎりえ』1957（昭和32）年12月 美術出版社
映画・演劇になった「にぎりえ」

開館30周年記念事業・本因坊戦開催「囲碁と文学」 4/23（火）～6/2（日）

豊原国周「御代春陽曆曾我」1873（明治6）年 北杜市囲碁美術館蔵
豊原国周「兒模様曾我館染」1878（明治11）年 北杜市囲碁美術館蔵
樋口一葉旧蔵 北村季吟『湖月抄』
芥川俊清「日記」1860（万延元）年・1861（万延2）年
川端康成 相田隆太郎宛書簡 年不明10月8日
川端康成『呉清源棋談・名人』1954（昭和29）年7月 文藝春秋新社
相田隆太郎『囲碁の打ち方』草稿
写真 呉清源の囲碁対局を観戦する坂口安吾（左端）1948（昭和23）年 提供 日本近代文学館
写真 囲碁を打つ川端康成（左）と村松梢風 鎌倉市西御門の村松梢風邸にて 1951（昭和26）年頃
撮影 沼野謙 提供 日本近代文学館

◆ 夏の常設展

近代文学の名作3 芥川龍之介「或阿呆の一生」 6/4（火）～8/25（日）

芥川龍之介「或阿呆の一生」前書き原稿
芥川龍之介「或阿呆の一生」原稿
「改造」第9巻第10号 1927（昭和2）年10月

◆ 秋の常設展

近代文学の名作4 山本周五郎「青べか物語」 8/27（火）～10/14（月・祝）

山本周五郎「青べか物語 毒をのむと苦しい」原稿
山本周五郎『青べか物語』1961（昭和36）年1月 文藝春秋新社
「文藝春秋」第38巻第11号
べか舟の模型

近代文学の名作5 山本周五郎「おごそかな湯き」 10/16（水）～12/1（日）

山本周五郎「おごそかな湯き 川には魚がいた2」原稿
山本周五郎『おごそかな湯き』1967（昭和42）年10月 新潮社
「朝日新聞」日曜版 1967（昭和42）年2月26日 山梨県立図書館蔵

◆ 冬の常設展

近代文学の名作6 深沢七郎「檜山節考」 12/3（火）～1/26（日）

深沢七郎「檜山節考」原稿
深沢七郎「檜山節考」草稿
深沢七郎『檜山節考』1957（昭和32）年2月 中央公論社
「中央公論」第71年第12号 1956（昭和31）年11月

近代文学の名作7 深沢七郎「笛吹川」 1/28（火）～2/27（木）

深沢七郎「笛吹川」草稿
深沢七郎『笛吹川』1958（昭和33）年4月 中央公論社

山梨の文学風土

◆ 甲斐のうた（パネル展示）

酒折の宮／塩の山・差出の磯／都留の郡／甲斐の牧

◆ 松尾芭蕉と甲州

杉山杉風「芭蕉翁馬上吟図」軸装〈複製〉原本 天理大学附属天理図書館蔵
松尾芭蕉 森川許六宛書簡 元禄5年11月13日 軸装〈複製：原本 個人蔵〉
高山麁峙 一瀬調実宛書簡 年不明12月19日〈複製：原本 個人蔵〉
猪来編『蓑虫庵小集』文政7年自序〈複製：原本 天理大学附属天理図書館蔵〉

◆ 甲州の紀行文

深草元政『身延道の記』元禄17年刊
荻生徂徠『徂徠集』卷之十五 元文元年序文「峡中紀行」収録
賀茂季鷹『富士日記』文政6年刊

◆ 甲府学問所 徽典館

乙骨耐軒「徽典館学頭勤務割」
乙骨耐軒「維心亨齋詩」三集上・下
甲府勤番支配宛 徽典館学頭任命通知書
乙骨耐軒「維新亨齋詩初稿」
乙骨耐軒「甲役途中詩」

◆ 国学を学んだ人々

本居宣長点 辻守瓶「春十首」和歌
本居宣長点 辻守瓶「春彦ぬしのはじめてとひ給へるときによめる」

樋口一葉（ひぐち いちよう）

吉川学校下等小学第八級卒業証書 1878（明治11）年6月
樋口一葉 古屋よし宛書簡 1890（明治23）年7月
樋口一葉「たけくらべ」原稿〈複製〉
樋口一葉「ゆく雲」未定稿〈複製〉
下村為山 樋口一葉肖像画〈複製〉
樋口一葉「合歓の風あてゝたゝむやひとり唄」短冊
一葉の愛用した短冊ばさみ
樋口一葉 感想・聞書9（残簡その三）卷子

木村莊八「たけくらべ絵巻」画稿控
樋口一葉 半井桃水宛書簡 1892（明治25）年秋
幸田露伴「一葉女史日記の後に書す」原稿
木村莊八「たけくらべ絵巻」画稿控（酉の市夜の吉原）
一葉 筆「伊勢物語」／「竹取物語」
新五千円札（A000006A番）
一葉愛用の筆立て
一葉愛用の髪飾り・櫛・こうがい
一葉旧蔵 短冊ばさみ
写真パネル 母多喜・奈津（7歳頃）・姉ふじ・妹くに 本郷6丁目5番屋敷時代
写真パネル 左から次兄・虎之助、父・則義、長兄・泉太郎
樋口虎之助作 薩摩焼絵付皿
写真パネル 萩の舎集合写真
写真パネル 半井桃水
写真パネル 竹内桂舟 画「うもれ木」第7回挿絵
写真パネル 文学界同人
写真パネル 一葉女史の碑建碑の日 1922（大正11）年10月15日

第2室

井伏鱒二（いぶせ ますじ）

井伏鱒二「近逢春時」額装
井伏鱒二「あの山は誰の山だどつしりとしたあの山は」軸装
井伏鱒二「富士に八月見草がよく似合ふ 太宰治のことば」軸装
井伏鱒二「今日は仲秋名月 何々をしのぶ宵」額装
井伏鱒二「あきのおんたけこゝのつどきに」軸装
井伏鱒二「十一月二十四日記」原稿
井伏鱒二「さびしい庭にまつかさおちてとてもお前はねにくうござろ」軸装
井伏鱒二「わたしのこゝろの大空に舞ひ狂ふはるかなる紙凧一つ」色紙
井伏鱒二 野上照代宛書簡 1987（昭和62）年3月1日消印
井伏鱒二「本日休診」原稿
井伏鱒二「波高島」原稿〈複製〉
井伏鱒二「旧・笛吹川の趾地」原稿〈複製〉
井伏鱒二『厄除け詩集』1937（昭和12）年5月 野田書房
井伏鱒二『ドリトル先生アフリカ行き』1941（昭和16）年1月 白林少年館出版部
井伏鱒二『黒い雨』1966（昭和41）年10月 新潮社
井伏鱒二『岳麓点描』1986（昭和61）年4月 弥生書房
写真パネル 1963年4月16日 栃代川の釣行で 井伏鱒二、山角司、飯田龍太、小林富司夫
撮影 宅間正一

太宰 治（だざい おさむ）

太宰治「富士には月見草がよく似合ふ」拓本軸装
太宰治 高田英之助宛葉書 1939（昭和14）年1月11日消印〈複製〉
太宰治 井伏鱒二宛書簡 1938（昭和13）年10月25日〈複製〉
太宰治 井伏鱒二宛書簡 1938（昭和13）年10月25日消印〈複製〉
太宰治「ヴィヨンの妻」原稿〈複製〉
太宰治「陰火」原稿〈複製〉
太宰治「人間失格」原稿〈複製〉
太宰治『右大臣実朝』1939（昭和14）年4月 砂子屋書房
太宰治『人間失格』1948（昭和23）年7月 筑摩書房
太宰治『ヴィヨンの妻』1947（昭和22）年8月 筑摩書房

写真パネル 御坂峠文学碑除幕式
写真パネル 三鷹の古本屋にて 撮影 田村茂
写真パネル 陸橋にて 撮影 田村茂

檀 一雄 (だん かずお)

檀一雄 中国でのスケッチ帳
檀一雄 「魂きはる命の限り見てしがな青海原の断崖に坐す」一枚物
檀一雄 「不思議やな此処にして坪にも足りぬ鎮魂の仮現の憩ひ」一枚物
檀一雄画 「太郎生後九十四日」額装〈複製〉
檀一雄 「落日を拾ひに行かむ海の果」色紙
檀一雄 「花を天に挿ざし月を地に展ぶ」色紙
檀一雄 「モガリ笛いく夜もがらせ花に逢はん」色紙
檀一雄 「微笑」(『火宅の人』第1章)原稿〈複製〉
檀一雄 「娘達への手紙」原稿
檀一雄 「旅立ち」原稿〈複製〉
玉井徳太郎画 『少年猿飛佐助』挿絵原画
檀一雄 『リツ子・その愛』『リツ子・その死』1950(昭和25)年4月 作品社
檀一雄 『長恨歌』1951(昭和26)年3月 文藝春秋社
檀一雄 『真説石川五右衛門』1951(昭和26)年9月 新潮社
檀一雄 『火宅の人』特装本 1979(昭和54)年6月 新潮社

山本周五郎 (やまもと しゅうごろう)

山本周五郎 「青べか物語」原稿
山本周五郎 「おごそかな渴き」原稿
山本周五郎 「駈込み訴え」原稿
山本周五郎 「やぶからし」原稿
和泉比呂詩 「五月の野辺」草稿
山本周五郎 「わが野鳥たち」原稿〈複製〉
山本周五郎 『山彦乙女』1952(昭和27)年2月 朝日新聞社
山本周五郎 『季節のない街』1962(昭和37)年12月 文藝春秋新社
山本周五郎 (清水きよし) 「酔漢とその細君」草稿〈複製〉
山本周五郎 『赤ひげ診療譚』1959(昭和34)年2月 文藝春秋新社
山本周五郎 『五瓣の椿』1959(昭和34)年9月 講談社
山本周五郎 『縦ノ木は残った』1969(昭和44)年8月 講談社
「新少年」別冊付録 『シャーロック・ホームズ』1935(昭和10)年12月
映画 「赤ひげ」パンフレット 1965(昭和40)年 東宝
映画 「赤ひげ」台本
映画 「赤ひげ」ポスター
映画 「海は見ていた」ポスター
映画 「五瓣の椿」ポスター 1964(昭和39)年 松竹
映画 「いのちぼうにふろう」ポスター 1971(昭和46)年 東宝・俳優座提携作品
映画 「黒沢明時代劇特集」ポスター 東宝
映画 「椿三十郎」ポスター
写真パネル 秋山青磁 撮影 書齋 間門園にて
写真パネル 秋山青磁 撮影 高森栄次、山手樹一郎とともに
写真パネル 林忠彦 撮影 浦安時代

深沢七郎 (ふかさわ しちろう)

深沢七郎 小林富司夫宛葉書 1957(昭和32)年12月14日消印
深沢七郎 京谷秀夫宛葉書 1961(昭和36)年10月12日消印
深沢七郎 川久保正郎宛葉書 1960(昭和35)年4月2日

深沢七郎 川久保正郎宛葉書 1960 (昭和35) 年10月23日
 深沢七郎 川久保正郎宛葉書 1966 (昭和41) 年1月8日
 深沢七郎 「笛吹川」草稿 (複製)
 深沢七郎 「言わなければよかったのに日記」原稿 (複製)
 高橋忠弥画 『榎山節考』 (1957年2月 中央公論社) カバー原画
 木下恵介脚本 「榎山節考」台本
 岡本克己脚色 「狂言榎山節考」台本
 大槻義一脚色 「人情夜話榎山節考第1～第3回」台本
 武智鉄二脚色 「お茶の間劇場榎山節考」台本
 深沢七郎 『榎山節考』 1957 (昭和32) 年2月 中央公論社
 深沢七郎 『笛吹川』 1958 (昭和33) 年4月 中央公論社
 深沢七郎 『甲州子守唄』 1965 (昭和40) 年3月 講談社
 深沢七郎 『言わなければよかったのに日記』 1968 (昭和43) 年3月
 映画 「榎山節考」プログラム 1958 (昭和33) 年4月 松竹
 今川焼屋 「夢屋」包装紙
 映画 「榎山節考」リーフレット
 深沢七郎 『榎山節考』 出版記念会リーフレット
 歌舞伎座舞台パンフレット
 「六月歌舞伎」パンフレット1957 (昭和32) 年6月
 東映 「榎山節考」映画プログラム
 映画 「笛吹川」パンフレット 1960 (昭和35) 年
 映画 「榎山節考」ポスター 1983 (昭和58) 年
 映画 「笛吹川」ポスター 1960 (昭和35) 年 松竹
 横尾忠則画 「夢屋」ポスター
 写真パネル ギターリストの頃
 写真パネル 1976 (昭和51) 年4月6日 石和の甲運亭にて

山崎方代 (やまざき ほうだい)

山崎方代 「茶碗の底に梅干の種が二つ並びをるこれが愛というものだ」軸装
 山崎方代 「詩一つ」額装
 山崎方代 「方代の一日が暮れて朝が来て又ふあふあと日が闇けてゆく」色紙
 山崎方代 「ほんとうの酒がこの世にあつた時父もよいにき吾もよいたり」短冊
 山崎方代 「ゆえ知らぬ涙は下る朝の陽が茶碗の中のめしを照せり」色紙
 山崎方代 「一ひらのさくらの花が流れ来て黒き机の上にとまれり」短冊
 山崎方代 「ふるさとの右左口邨は骨壺の底にゆられてあが帰る村」色紙
 山崎方代 「寂しくて一人笑えば茶ぶ台の上の土瓶が笑い出したり」短冊
 山崎方代 「何処かで」短歌草稿
 山崎方代 「ふるさとの右左口邨は骨壺の底にゆられて吾が帰る村」軸装
 山崎方代 「ゆえ知らぬ涙は下る朝の陽が茶碗の中のめしを照せり」軸装
 山崎方代 「茶碗の底に梅干が(の)種が二つ並びをるこれが愛というものなのだ」軸装
 山崎方代 「フランソワ・ヴィヨンの詩鈔をふところに一ツ木町を追れゆくなり」色紙
 山崎方代 「なんじゃもんじゃの木」草稿
 山崎方代 「つむがりの白いせつない耳なりき沖には月が登りつゝあり」額装
 山崎方代 「ほんとうの酒がこの世にありし時父もよいたり吾もよいにき」軸装
 山崎方代 「フランソワ・ヴィヨンの詩鈔ふところに一ツ木町を追われゆくなり」短冊
 山崎方代 「ゆえ知らぬ涙は下る朝の陽が茶碗の中のめしを照せり」色紙
 山崎方代 「ある朝の出来ごとでしたこおろぎがあがかけ茶碗とび越えゆけり」扇面色紙
 山崎方代 「名物の赤城下しをききながらこんにやく作りの講習を受く」軸装
 山崎方代 「ほんとうに泣けば涙が出でて来る雪割草は白い花なり」色紙
 山崎方代 「冬の陽が遠く落ちゆく橋の上ひとり方代は瞳をしばだたく」短冊
 山崎方代 「冬の日が真綿のやうに射しこんで大正三年も遠くなりたり」短冊

山崎方代「裏の柿の木に日が当りいて女は遠方にある」一枚物
方代愛用の品 眼鏡 万年筆 文鎮 太筆
山崎方代『方代』1955（昭和30）年10月 山上社
山崎方代『右左口』1973（昭和48）年12月 短歌新聞社
山崎方代『こおろぎ』1980（昭和55）年11月 短歌新聞社
山崎方代『青じその花』1981（昭和56）年12月 かまくら春秋社
山崎方代『迦葉』1985（昭和60）年11月 不識書院
方代旧蔵『ヴィヨン詩鈔』（複製）
写真パネル 撮影 湯川晃敏

中村星湖（なかむら せいこ）

中村星湖「島村抱月の話」原稿
中村星湖「幸ひはこゝにこそ住め朝にたち夕かゝよふ富士やまの裾」色紙
中村星湖「西湖の鱒」草稿
中村星湖「追悼 川合仁君」色紙
中村星湖「復活祭の後」草稿
中村星湖「あら玉の年たち帰るこのあした真白き富士に見よ茜さす」一枚物
中村星湖「女のなか」原稿（複製）
中村星湖「少年行」原稿（複製）
中村星湖『少年行』愛蔵版 1975（昭和50）年6月 文遊社
中村星湖 訳『ボヴリイ夫人』1916（大正5）年6月 早稲田大学出版部
中村星湖「また逢はむと云ひて別れし丘の上にわれは来たれど落葉のみして」短冊
中村星湖「飛ぶ鳥にかゝはらす立つ案山子かな」短冊
中村星湖・まさじ和歌集『残雪抄』1988（昭和63）年4月 文遊社

前田 晁（まえだ あきら）

前田晁「『文章世界』と私」原稿
前田晁『少年国史物語』原稿（複製）
前田晁「クオレ」についての講演原稿1
前田晁「クオレ」についての講演原稿2
前田晁「(源氏と平氏)」草稿
ジャン・ジャック・ルソー作 前田晁訳「エミール」草稿
高村光太郎 前田晁宛葉書 1938（昭和13）年10月29日
田山花袋筆「文章世界」創刊号立案（複製）
小出楯重画「文章世界」第15巻第11号表紙原画 1920（大正9）年11月（複製）
アミーチス作 前田晁訳『クオレ 愛の学校』1927（昭和2）年1月 平凡社

三井甲之（みつい こうし）

三井甲之「友の悲しみ」草稿
三井甲之「海の波よせてはかへすと思ふよりもよせてはかへすうねりを見たまへ」短冊
三井甲之愛用の懐中時計と煙草入れ
三井甲之「古事記論」草稿
「アカネ」創刊号表紙原稿（複製）
三井甲之「志きしまのみち」色紙
島木赤彦 三井甲之宛書簡 1908（明治41）年（推定）4月1日
三井甲之「生命」草稿
三井甲之「雪ふれば家にこもりてくにのためしつものりぬ神をまつりて」短冊
愛用のシルクハット
愛用品 筆立て・インキ壺

中里介山（なかざと かいざん）と山梨

中里介山「大菩薩峠 白骨の巻」原稿〈複製：原本 日本近代文学館蔵〉
中里介山「大菩薩峠 他生の巻」原稿〈複製：原本 日本近代文学館蔵〉
安岡章太郎「果てもない道中記(四)」原稿
中里介山『大菩薩峠』1918（大正7）年11月 玉流堂
中里介山『大菩薩峠』1919（大正8）年4月 玉流堂
中里介山「大菩薩峠 めいろの巻」新聞切り抜き
『石井鶴三挿絵集』第1巻 1934（昭和9）年11月 光大社
「大菩薩峠」新国劇パンフレット

伊藤左千夫（いとう さちお）と山梨の歌人たち

日原無限ほか「地方歌会 甲斐楓会（題 苔）」原稿
日原無限「時雨空霽れなむとする雲の色彼の雲の色よ君が心に」一枚物
「神奈桃村日記」1916（大正5）年10月15日～1922年2月28日
岡千里「あかつきを囀りそめて落椿地上に赤くぬれにみれたり」短冊
神奈桃村「紫芋をかこひ穴よりとりだし芽あるとなきを選びわけけるかも」短冊
神奈桃村「岩窟に安置されたる百体の石の看音見てまわりけり」短冊
岡千里「春半は椿の花の赤きうらみ地上に落ちて死にかねし色よ」短冊
伊藤左千夫他「諸家寄せ書」
伊藤左千夫 岡千里宛葉書 1905（明治38）年12月28日
伊藤左千夫 岡千里宛葉書 1906（明治39）年8月11日
伊藤左千夫 岡新次宛葉書 1906（明治39）年8月16日消印
伊藤左千夫 岡新次宛葉書 1906（明治39）年10月30日
伊藤左千夫 岡千里宛書簡 1911（明治44）年11月7日
伊藤左千夫 岡千里宛書簡 1911（明治44）年12月11日
伊藤左千夫 岡千里宛葉書 1912（明治45）年2月14日
神奈桃村 岡千里宛葉書 年不明3月10日
神奈桃村 岡千里宛葉書 年月日不明
「馬酔木」第3巻第6号 1906（明治39）年10月〈復刻〉

秋山秋紅蓼（あきやま しゅうこうりょう）

秋山秋紅蓼「うめの花枝にひらきかほり来るあさ」短冊
秋山秋紅蓼「かせ吹く夕日が在るばかり」短冊
秋山秋紅蓼「自由律精神について」原稿
秋山秋紅蓼「番町屋敷町」句稿
秋山秋紅蓼「俳句四格調の説」原稿〈複製〉
秋山秋紅蓼 スケッチブック 1951（昭和26）年4月
秋山秋紅蓼 スケッチブック 1963（昭和38）年12月
秋山秋紅蓼「バラの咲いた朝で夢の話をしている」短冊
秋山秋紅蓼「ふるさと」原稿〈複製〉
秋山秋紅蓼「きいろいのみものがすゞしく遠ういなづま」色紙
秋山秋紅蓼「秋風」原稿
秋山秋紅蓼 スケッチブック「黒部鐘釣温泉にて」
秋山秋紅蓼「ある女と青年」句稿
秋山秋紅蓼「文楽人形」スケッチ
「層雲」第41巻第9号 1953（昭和28）年12月

田中冬二（たなか ふゆじ）と山梨

田中冬二「晩春の夜に」草稿
田中冬二「春」一枚物

堀口大聖 田中冬二宛葉書 1943（昭和18）年7月28、29日
田中冬二「若葉雨」自筆句集
田中冬二「薬師寺秋思」解説草稿
田中冬二「清水を祇園へ下る菊の雨」色紙
田中冬二「夕餉」草稿
田中冬二「みぞれのする小さな町」色紙
田中冬二「鱈売女雪女郎となりにけり」短冊
田中冬二『青い夜道』1929（昭和4）年12月 第一書房
田中冬二 深沢正志宛書簡 1964（昭和39）年4月9日（複製）

木々高太郎（きぎ たかたろう）

木々高太郎「少年時代によんだ本」草稿
木々高太郎「夜をこめて囁く如し哲学を恋をねたみをわが耳鳴りは」色紙
木々高太郎「雨と殺人」原稿
木々高太郎「笛吹一或るアナーキストの死」草稿（複製）
木々高太郎「美の悲劇」原稿（複製）
平井太郎（江戸川乱歩）木々高太郎宛書簡 1935（昭和10）年10月19日
平井太郎（江戸川乱歩）木々高太郎宛書簡 1937（昭和12）年（推定）2月25日付
木々高太郎『医学生と首』挿絵原画
林麟『頭のおよくなる本』1960（昭和35）年10月25日9版 カッパ・ブックス
木々高太郎『人生の阿呆』1936（昭和11）年7月 版画荘
木々高太郎『笛吹』1948（昭和23）年3月 世界社

小尾十三（おび じゅうぞう）

小尾十三「からすの親子」草稿
小尾十三「青い林檎」草稿
小尾十三「怨恨」草稿
小尾十三「母への反抗時代」原稿（複製）
小尾十三「親子だるま」原稿
小尾十三 俳句・短歌草稿
小尾十三 井伏鱒二宛書簡 1950（昭和25）年6月2日
芥川賞記念品の腕時計
「文藝春秋」第22巻第12号 1944（昭和19）年12月
小尾十三『雑巾先生』1945（昭和20）年2月 満洲文藝春秋社（複製）

村岡花子（むらおか はなこ）

柳原白蓮「春浅しそらには空のひかりあり人にはひとのよろこびあれや」色紙
村岡花子「赤毛のアン」第3・4・5章 翻訳原稿（複製）
村岡花子「日光の町」原稿
村岡花子 前田晁宛書簡 1927（昭和2）年9月20日
モンゴメリ『ANNE OF GREEN GABLES』（複製）
村岡花子童話集『桃色のたまご』1935（昭和10）年11月 健文社
村岡花子童話集『1年生』1941（昭和16）年1月 文昭社
村岡花子『随筆集 心の饗宴』1941（昭和16）年4月 時代社
村岡花子『赤毛のアン』1952（昭和27）年5月 三笠書房

徳永寿美子（とくなが すみこ）

徳永寿美子「子ばとのぼうちゃん」草稿
徳永寿美子「フランダーズの犬」草稿
徳永寿美子「あんじゅとずしおう」草稿

徳永寿美子「母をたずねて三千里」草稿
徳永寿美子「小公子」原稿（複製）
徳永寿美子「かぐや姫」草稿
徳永寿美子『小公子』1951（昭和26）年4月 小峰書店
徳永寿美子『おかあさんのおひざ』1953（昭和28）年4月 金の星社
徳永寿美子『安寿と厨子王』1953（昭和28）年12月
徳永寿美子『フランダースの犬』1965（昭和40）年12月 盛光社

八木義徳（やぎ よしのり）と山梨

八木義徳「『生れ出づる悩み』（有島武郎）」原稿
八木義徳「文章は血と土とそして海の風から生れる」色紙
八木義徳「灰色の海に」色紙
八木義徳「『御身』について」原稿
八木義徳「系図」原稿
八木義徳「処女作の思ひ出」原稿
「文藝春秋」第22巻第9号 1944（昭和19）年
「海」第13巻第5号 1981（昭和56）年5月
八木義徳『風祭』1976（昭和51）年8月 河出書房新社

武田泰淳（たけだ たいじゅん）と山梨

武田泰淳「いりみだれた散歩」原稿
武田泰淳「L恐怖症」原稿
武田泰淳「わが子キリスト」原稿（複製：原本 日本近代文学館蔵）
武田泰淳 檀一雄宛葉書 1972（昭和47）年6月29日消印
司 修『富士』挿絵原画エッチング
映画「ひかりごけ」パンフレット
「海」第1巻第1号 1969（昭和44）年6月
「海」第7巻第1号 1975（昭和50）年1月
「海」第8巻第12号 1976（昭和51）年12月
武田泰淳『わが子キリスト』1968（昭和43）年12月 講談社
武田泰淳『富士』1971（昭和46）年11月 中央公論社

李良枝（イ・ヤンジ）

李良枝「由熙」草稿
李良枝「かずきめ」草稿
李良枝「石の聲」第2・3章草稿
李良枝「由熙へ」草稿
芥川賞正賞の記念品
愛用の筆筒、文具類
「群像」第47巻9号 1992（平成4）年8月
李良枝『かずきめ』1983（昭和58）年9月 講談社
李良枝『由熙』1989（平成元）年2月 講談社
李良枝『石の聲』1992（平成4年）9月 講談社

辻 邦生（つじ くにお）と山梨

辻邦生 村松定史宛書簡 1981（昭和56）年8月17日消印
辻邦生「南イングランドの印象から」原稿
辻邦生「遠い花火」草稿
辻邦生「花火」校正刷り
辻邦生「<さだまさし>って何」雑誌切り抜きコピー
「海」創刊特大号 1969（昭和44）年7月
「海」1976（昭和51）年7月
辻邦生『銀杏散りやまず』1989（平成元）年9月 新潮社
辻邦生『背教者ユリアヌス』1972（昭和47）年10月 中央公論社

第3室 芥川龍之介

【大川の水（誕生・少年期）】

伯母のふきが使った長唄稽古本
「牛乳の用法」パンフレット 1904（明治37）年11月 耕牧舎
芥川龍之介「義仲論」原稿

【空中の火花（文壇登場）】

菅虎雄筆「我鬼窟」扁額〈複製〉
芥川龍之介「鼻」草稿「新思潮」1916（大正5）年2月掲載〈複製〉
「新思潮」創刊号 1916（大正5）年2月
芥川龍之介「葬儀の記」原稿〈複製〉
芥川龍之介「秋」草稿
芥川龍之介『傀儡師』1919（大正8）年1月 新潮社
芥川龍之介『点心』1923（大正11）年5月 金星堂
芥川龍之介『支那遊記』1925（大正14）年11月 改造社

【ぼんやりした不安（苦悩と死）】

芥川龍之介筆「澄江堂十首」卷子〈複製：原本 天理大学附属天理図書館蔵〉
『近代日本文藝読本』全5巻 1925（大正14）年11月 興文社
芥川龍之介『湖南の扇』1927（昭和2）年6月 文芸春秋社出版部
芥川龍之介「文芸的な、余りに文芸的な」原稿「改造」1927（昭和2）年4月掲載〈複製〉
芥川龍之介「或阿呆の一生」原稿「改造」1927（昭和2）年10月掲載〈複製〉

【書画の魅力】

芥川龍之介 詩「風にまひたる菅笠の」額装
芥川龍之介画 水彩画 花
芥川龍之介画 水彩画 女性像 1910（明治43）年
芥川龍之介画「紙窓風漸瀝」
芥川龍之介画 素描、水彩画
芥川龍之介「諸君は何の為に文章を作るや」額装
芥川龍之介画 水彩画 1909（明治42）年、1910（明治43）年
芥川龍之介 石川寅吉宛書簡額装 1924（大正13）年3月8日
我鬼山人画 墨絵

【芥川の俳句】

「喇嘛寺のさびしさつげよ合歡の花」ほか俳句草稿
「麦秋の茜の産衣縫ひけらし」ほか俳句草稿
「黒南風のうみ風げるたまゆらや」ほか俳句草稿
「札白し牡丹畑の夕あかり」ほか俳句草稿
「沼のべの柳もぞろと霞みけり」ほか俳句草稿
「風光る杉山かひに村ひとつ」ほか俳句草稿
「火花より遠き人ありと思ひけり」ほか俳句草稿
「山にほふ落葉に月のほがらかな」ほか俳句草稿
「秋鯖やあだ塩とくる一日干し」ほか俳句草稿
「雁啼くや芥火燃ゆる裏河原」連句草稿
「山もとの夜長を笠のゆくへかな」ほか俳句草稿
「木がらしの海吹き風げるたまゆらや」俳句草稿
「生け垣はかたかげりつつ山茶花や」俳句草稿
「みぞるるや犬の来てねる炭俵」ほか俳句草稿
芥川龍之介 飯田蛇笏宛書簡 1923（大正12）年12月1日〈複製〉
飯田蛇笏 芥川龍之介宛書簡 1926（昭和元）年12月29日〈複製〉

「ホトトギス」1918（大正7）年9月
「ホトトギス」1919（大正8）年3月
芥川龍之介『梅・馬・鶯』1926（大正15）年12月 新潮社〈復刻〉
「雲母」1927（昭和2）年9月号
『澄江堂句集』1927（昭和2）年12月 文藝春秋社

【芥川と山梨】

芥川龍之介「藤の花軒端の苔の老いにけり」軸装〈複製〉
芥川龍之介「水虎晚帰之図」額装〈複製〉
芥川龍之介 山本喜誉司宛書簡 1910（明治43）年10月14日〈複製〉
芥川龍之介 山梨夏期大学講演メモ〈複製〉

【羅生門】

「羅生門」関連ノート〈複製〉
芥川龍之介『羅生門』1917（大正6）年5月 阿蘭陀書房〈復刻〉
芥川龍之介『鼻』1918（大正7）年7月 春陽堂〈復刻〉

【友への手紙】

芥川龍之介 井川恭宛書簡 1914（大正3）年1月21日〈複製〉
原本 大阪市立大学学術情報総合センター恒藤記念室蔵

【夏目漱石の手紙】

夏目漱石 久米正雄・芥川龍之介宛書簡 1918（大正7）年8月21日〈複製〉

【芥川と児童文学】

芥川龍之介 鈴木三重吉書簡 1919（大正8）年11月9日〈複製〉
「赤い鳥」創刊号 1918（大正7）年7月
芥川龍之介「蜘蛛の糸」原稿〈複製〉
芥川龍之介「杜子春」原稿〈複製〉
芥川龍之介『三つの宝』1928（昭和3）年6月 改造社〈復刻〉

芥川龍之介作 楽焼皿「小心火盗」
『芥川龍之介全集』（1934年岩波書店）予約募集の凸版
愛用のペーパーナイフ
自筆俳句入扇面「明星のちろりにひびけほととぎす」

【全国文学館協議会共同展示「3.11文学館からのメッセージ—天災地変と文学」】

吉田初三郎 画「関東震災全地域鳥瞰図絵」を読む 平成31年3月9日(土)～令和元年6月2日(日)

第4室 飯田蛇笏・飯田龍太記念室

【境川村小黒坂】

飯田蛇笏・飯田龍太使用の硯
飯田家家相図 1899（明治32）年

【飯田蛇笏】

飯田蛇笏「切株や雪どけしたる猿たけ」軸装
飯田蛇笏「小野の鶯雲に上りて春めきぬ」軸装
飯田蛇笏「雲遠き塔に上りて春をしむ」軸装
飯田蛇笏「靴下の淡墨にして桜狩」短冊
飯田蛇笏「籠にして梅の二三枝春嵐」色紙
飯田蛇笏「えぞ富士は春しぐれする蝶の冷え」短冊
飯田蛇笏「虹に啼き雲にうつろひ夏雲雀」軸装